ジャパントップ12大会
史上最年少で初優勝

自分とは思えないプレー

——トップ12は4回目の出場で史上最年少の優勝となりましたが。

石川　今日は凄く良い試合ができました。まるで自分ではないようです。思い切って、何も考えずにやろうと思ったので、それが凄く試合につながりました。予選でカットマンの王楠選手と対戦したのですが、NTの合宿で相手カット打ちをしていたので、それが自信になっていたし、良い試合に繋がったと思います。

——主要選手とは全日本でも対戦しましたが、前回と変えた部分は。

石川　前はつなぐボールばかりで、それを強い打ちされていました。今回はそれを強い打ちされないように、早い打点でツッツキとかドライブとかを混ぜて緩急をつけました。それから、後ろから打ち返されても、強気で打っていこうと思っていました。

——1ゲーム目は慎重で落としましたが、2ゲーム目から変えたように見えたのですが。

石川　1ゲーム目は少し焦ったな、と思って試合に臨んでしまいました。しかし、私より強い相手なので、向かって行かなきゃ勝てないと思い、2ゲーム目からは力が抜けて、良いプレーができたのではないかと思います。

——NT合宿での成果（カット打ち）が出ていて、射の位置も高く、ドライブやスマッシュが連打できていたと思うのですが。

石川　カット打ちをやり込んでいたので、自信になっていたし、非常によかったと思います。

——決勝では、優勝を決めた瞬間ガッツポーズが出ましたが、どういう心境でしたか。

石川　今日は自分にとって、非常に良い試合ができました。合宿でフォームも少し変えたし、練習でやってきた成果も出せたので、気がついたらガッツポーズをしていました。

——フォームを変えたとおっしゃいましたが、具体的には。

石川　今までのフォームでは、フォアハンドを1本打つと戻れなくなってしまい、フォア側を連続して攻撃されていました。そこで合宿中に中国の強い選手のプレーを研究して、参考にしました。フォームを変えたことにより、以前までは打つ時に腕が動いてしまっていた（首が根を向く）のですが、首を正面に向けたまま打球できるようになり、打点も少し早くなりました。

——決勝は福原選手でしたが。

石川　これまで何度も福原さんと対戦していますが、受け身にならないで、常に攻めて行こうという気持ちでプレーしました。福原さんにはいつもダブルスなどでお世話になっているのですが、シングルスでは福原選手は世界ランクも上ですし、ダブルスとは違った気持ちに切り替えて、挑戦者の気持ちで挑みました。

——大会を通じてサーブが非常に効果的だったようにおいますが。

石川　きっと、フォアハンドが良くなったので、ゆっくりと、自信を持ってサーブを出せたからだと思います。

——この大会はベンチコーチがいない試合でしたが、どうでしたか。

石川　自分で考えなくてはいけないということで、試合前にたくさん戦術を考えてゲームに入るようにしました。

——優勝賞金は100万円ですが、使い道は。

石川　優勝したら、母にグアム旅行にこうねと話しました。でも、時間がないので、行ってもらう感じになると思います。

——話は変わりますが、昨年末に広島で行われた講考会ですが、調子の方は。

石川　普通だったと思います。

——最終日まで優勝争いが混沌としていましたが。

石川　みんな同単になって、勝ったら代表、負けたら落選ということでした。私は1本1本勝のないと気持ちを入れて頑張りました。

——その中で、自力で代表権を獲得した訳ですが。

石川　今までは監督やスタッフの方に頼んでいただき、海外の試合などでいろいろと経験を積ませていただきました。その経験を活かせて代表権を勝ち取れたので、嬉しかったです。

——東アジア選手権では福原選手とのダブルスで優勝しましたが。

石川　凄く自信になりました。卷頭がフルメンバーで出ていたし、競り合いの中で勝つことができたので、全日本選手権に向けて非常に自信になりました。

——その全日本選手権ですが、独特の雰囲気がありますが、気をつけたことは。

石川　初戦から良い試合をするようにして、徐々に調子をあげ、最後の日には最高のプレーができるように頑張りました。具体的には1本1本しっかりプレーをする意識です。

——全日本選手権はミックスからの登場で、優勝という結果に終わりましたが。

石川　中学校3年生の世界ジュニア以来だったので、緊張しました。パートナーの松平さんに助けてもらって優勝できました。

——ジュニアは史上初の4連覇ということでしたが。

石川　優勝とか4連覇したいと思うと、どうしても力が入ってしまうので、1試合1試合だけを考えていました。結果として4連覇出来たことは非常に嬉しかったです。

——女子ダブルスでは、東アジア選手権の決勝と同じ顔合わせになりましたが。

石川　藤井さん、岩渕さんのダブルスが非常に強いのはわかっていました。強い選手と試合をする時は、大事な局面での1本、2本が勝敗を分けると思いました。

——シングルスでは、中国から帰化した福平さんと対戦しましたが。

石川　左利きの表ソフトの選手に苦手意識があったので、表ソフトの選手と練習をやり込みました。試合は私が先に2ゲームを取りましたが、そこから受け身になってしまい、2-2に追いつかれてしまいました。しかし、そこからは思い切って攻めることができたのが勝因だったと思います。

——次の相手は王楠選手でしたが。

石川　あの場所で勝ちたいという気持ちは強くありました。でも、相手は王楠さんだったので、勝ちたいという気持ちよりも自分の良いプレーをしようと思ってプレーしました。

——接戦でしたが敗れてしまいました。

石川　中学2年からランクに入っていることに関しては。

——中学2年からランクに入っているのは嬉しいです。しかし、今年はもっともっと勝ちたいと思っていたので、残念な気持ちもあります。

——全日本選手権で勝ち上がって行くとき、注意している点は。

石川　ジュニアの後に、ミックス、ミックスの後に一般など、試合と試合の間隔が詰まっているので、気持ちの切り替えを注意しています。この相手にはどういう作戦で行こうなど、試合前にいろいろと考えてプレーをしています。

——これからプロツアーなど、世界を相手にすることが多くなりますが。

石川　国内でもそうですが、格上の世界の選手と対戦する時は、前更、自分から積極的に攻撃を仕掛けていかなければいけないと思います。特にサーブ、レシーブを強化しなければ、勝てないと思います。

——最後に、世界選手権の目標を。

石川　一昨年試合に出た時は、準決勝という舞台で出させてもらいました。しかし、結果は負けてしまったので、チームに貢献できませんでした。今年はチームに貢献して、みんなから信頼してもらえるような選手になりたいです。

INTERVIEW

石川佳純
ミキハウスJSC

2010年世界選手権大会日本代表
全日本選手権大会女子ジュニア4連覇
混合複優勝